

2020年11月19日

名古屋市長 河村 たかし 様

日本共産党名古屋市議員団
団長 田口一登

ベルリン市ミッテ区の「平和の像」撤去を求める書簡の 送付に抗議し、撤回を求める申し入れ

名古屋市は11月5日、ドイツ・ベルリン市ミッテ区長宛に、市長名で「平和の像」の撤去を申し入れました。日本軍「慰安婦」に関する河村市長の誤った歴史認識を名古屋市が世界に広めることに對し、厳しく抗議し、撤回を求めます。

書簡の中で、河村市長は「あいちトリエンナーレ」における少女像について「この像は極めて政治的な主張であることに加え、歴史的な事実も考慮していない」ため「負担金交付を取りやめた」といい、「歴史的な事実に基づかない、日本を中傷する表現」だという抗議の声まで紹介してベルリンの「平和の像」の撤去をもとめています。2日の定例記者会見では「ベルリンの像の碑文には、数えきれない数の子どもと女性たちが日本軍に強制連行されて性奴隷にされたと、とんでもないことが書いてあり、これはウソである」とまで言って撤去を求めています。

しかし、事実は全く違います。政府は河野談話（1993年「慰安婦関係調査結果発表に関する河野内閣官房長官談話」）で、韓国人「慰安婦」が、「募集、移送、管理等も、甘言、強圧による等、総じて本人たちの意思に反して行われた」と認めています。強制連行を否定していません。また、この河野談話は、安倍内閣でも、「見直すことは考えていない」との立場を繰り返し表明しており、この点でも事実に反しています。

さらに問題なのは、「慰安婦」問題を「強制連行」の有無に矮小化することで、その全体像と本質を覆い隠すねらいがあるということです。女性たちがどんな形で来たにせよ、ひとたび日本軍「慰安所」に入れば性奴隷状態にお

かれたという事実は、多数の被害者の証言とともに、旧日本軍の公文書などに照らしても動かすことができない事実です。河野談話では「慰安所における生活は、強制的な状況の下」と記しています。この事実こそ、「軍性奴隸制」として世界からきびしく批判されている、日本軍「慰安婦」制度の最大の問題です。

そこで以下の回答を求めます。書簡に記された「⁽¹⁾この像は極めて政治的な主張であることに加え、⁽²⁾歴史的な事実も考慮していない」事の根拠を明らかにしてください。

河村市長の態度は、過去の侵略戦争と植民地支配への反省を欠き、それを正当化するもので、こうした態度は北東アジアの平和をつくるうえでもきわめて有害です。

「慰安婦」問題は女性の間としての尊厳を踏みにじった行為であり、この歴史の事実に対して、「性奴隸制」の加害の事実を認め、被害者への謝罪と賠償の責任を日本は果たすべきと考えています。日本共産党名古屋市議員団は、河村市長の発言と書簡の送付に強く抗議し、撤回するよう強く求めます。

以上